

透析患者の nPCR（標準化蛋白異化率）の検討

長崎腎病院

○吉野秀章 山下万紀子 川口唯 高木伴幸 原田孝司 船越哲

【背景・目的】

nPCR は蛋白質摂取量の指標となり、良好な生命予後のためにも 0.9 以上であることが望ましいとされている一方、0.9 未満であっても栄養指標である GNRI や血清リン値が良好な症例もある。そこで、nPCR と栄養指標などの相関関係を調べ、適切な nPCR 値につき検討した。

【方法】

外来透析患者の nPCR と GNRI、血清リン値の相関関係を調査し、さらに nPCR 低値群 (0.9 未満) 適正群 (0.9~1.2) 高値群 (1.3 以上) でのリン吸着剤処方頻度を調査した。

【結果】

対象は外来透析患者 302 名。nPCR と GNRI との相関では $R=0.125$ と相関は認められなかったが、血清リン値との比較では $R=0.393$ と中等度の正の相関が認められた。また、nPCR が高いほどリン吸着剤処方頻度が高い傾向にあった。

【考察】

nPCR は蛋白質摂取量の指標に有用であるが、患者によっては必要以上の蛋白質摂取は高リン血症などの問題が生じる可能性がある。